

表現発表会

1年生



はじめは右も左も迷い、振り付けや回る向きなどをなかなか覚えることができませんでした。校庭での隊形移動の練習の際も、自分の位置までたどり着けず、苦戦しました。しかし、できないところを何度も何度も繰り返し練習し、できるようになりました。昼休みに、練習用動画や曲を流し、自主的に練習に励む姿も見られました。

本番前は緊張している様子もありましたが、曲が流れると自信をもって、のびのびと踊ることができ、大成功に終わりました。本番後、子供たちは達成感の笑顔であふれていました。



2年生

「ロック八木節」では、踊るだけでなくパチを叩くリズムを揃えるところまで練習を行いました。パチを新聞で作り、練習に取り組みました。「腰を低くする」、「動きを大きくする」、「動くところと止まるところのメリハリをつけて踊る」ことを目標



にし、パチがポロポロになるまで練習を積み重ねてきました。休み時間に友達と声をかけ合い踊る姿も見られました。

本番では、今までの成果を発揮することができ、最後までかっこよく踊りきることができました。



3年生



「ともに ジャンプ!」では、長縄による八の字跳びや交互跳びに取り組みました。短縄では、一人技や難易度の高い二人技・三人技に挑戦しました。音楽に合わせて縄跳びを行うため、最初は苦戦しましたが、休み時間に自主的に練習を行うことで、どんどん上達していく姿が見られました。

本番が近づくとつれて、顔つきが変わっていき、全体としてがんばる雰囲気ができあがっていきました。本番では、今までの成果を発揮することができました。本番を終えると、児童の表情が達成感で満ちあふれていました。



4年生



昨年度、今の5年生から受け継いだ「王子狐ばやし」。子どもたちは、王子の伝統を大切に踊り継いでいこうと練習を重ねてきました。

今回は特に3つのポイントに重点を置いて指導をしました。

「キレを出す」「そろえる」「楽しい表情」です。子どもたちは、大変のみこみが早く、教えたことをすぐに理解し体現しました。また、子ども同士で踊りを見合い、真剣にアドバイスし合う姿が見られ、絆が深まりました。ボロボロになった扇子やお面は、子どもたちが一生懸命取り組んできたことの証です。本番は、間違いなく今までで一番の演技でした。

踊り終わった子どもたちの表情は自信に満ちあふれていました。

5年生

5年生は初めてのソーラン節なので、振り付けの細かいポイントを6年生から教えてもらう前に、学年で練習を重ねました。みんなとても吸収が早く、驚きました。休み時間もフロアで練習する子が多く、ソーラン節を踊ることをずっと楽しみにしていたことが伝わってきました。基本的な動きを覚えた後は、「腰を低くして、大きく動くこと」「止まる動き」を意識して練習しました。本番は、練習した成果を出すことができ、満足そうでした。来年度は6年生のような「力強さの中にも美しさがある演技」を目指そうと学年で話しました。



6年生

6年生にとって、小学校生活最後の「南中ソーラン」でした。昨年は、上の学年に引っ張ってもらっての演技でしたが、今年は5年生に王子小の伝統を引き継いでいく番です。5年生に教えるだけでなく、自分たちの踊りの質を高めて、最高学年としての演技になるように練習を重ねました。

本番では、昨年追究した動きの大きさや技の切れただけでなく、動きのしなやかさや表情まで意識して、素晴らしい「南中ソーラン」を披露することができ、小学校生活最後の良い思い出の1ページになりました。

